

心の栄養剤 No.239 『手紙（ラブレター）』

①ある飲食店がありました。お店の大將は元気で笑顔で、いつも僕を励ましてくれました。下ネタが多く、ツッコミどころ満載の大將でした。

奥さんはいなくて、たまに娘さんが手伝いに来ていました。

娘さんが結婚する時、大將は娘さんに手紙を書きました。

そして大將がその手紙を僕に見せてくれました。

娘・ミサトへ

いよいよ来月、結婚するんやね。

おめでとう。

ジューン・ブライドに憧れてたはずなのに、きみは結局、お母さんの旅立った八月を、式の日を選びました。

お母さんも天国で喜んでるでしょう。

あなたの母親であり、私の妻であった、我々の最愛の女性は、小さな記事として新聞にも掲載された交通事故により、きみがまだ6歳の時に亡くなりました。

突然すぎて、悲しみ抜いて、途方に暮れて、精神的に参ってしまった私は、死のうとしたんです。

バカなことに、きみを連れてお母さんを追いかけてしようとした。

その日、最後の思い出にと、家族でよく出かけた遊園地に2人で行きました。

きみは嬉しそうに、はしゃぎ回った。

いつも家族で乗ったメリーゴーランドにひとりで乗るきみを、私は精いっぱい笑顔を作って、だけど力なく手を振って、きみが「お父さん！」と呼ぶ声に必死で応えていました。

とにかくきみは楽しそうで、これが最後の遊園地になることも知らずに、いや、今日が最後の日であることも知らずに、元気いっばいに走っては、乗り物をハシゴしてた。

きみが楽しげであればあるほど心は痛んで、でも、心が痛めば痛むほど、必死で笑顔を作るようにしました。

やがて急流すべりを乗り終わって、こちらにかけてきたきみは、満足げな表情で見上げつつ、私と手をつないで、ニコニコしながらこう言いました。

「もういいよ、お父さん。もうお母さんのところに行こ」

きみは気づいてたんやね。きみを抱いたまま、ムリヤリ、父親の私がこの世を去ろうとしていたことを、なぜか知っていたんやね。

この言葉で、私はハッと目が覚めました。

24年前のあの日のことを、きみは憶えていないと言います。でも、君に子どもが、そう、私とお母さんにとっての孫ができて成長したら、あの遊園地にみんなで行こう。お母さんの分も入園券をちゃんと買って、みんなでメリーゴーランドに乗ろう。

そしてみんなで、思いっきり笑おな。

ミサト、本当におめでとう。

②ユウキ君は今小学4年生です。入所していた乳児院から、1歳になる直前に、お父さんとお母さんの所へ迎えられました。

そんなユウキ君のお母さんから、ユウキ君を産んだ人への「ラブレター」です。ユウキを産んでくれた方へ。

はじめまして。私はあなたにお会いしたことはありません。でも、あなたにとても感謝しています。

あなたは1人で小さいユウキを産んだ時、とてもつらく怖かったことでしょう。不安でいっぱいだったことでしょう。幼いユウキを愛おしく感じていたかもしれないのに手放してくださいました。断腸の思いだったことでしょう。

(中略)

一つだけお願いがあります。私は長年不妊治療をしてきたこともあり、高齢でユウキを育てています。早くユウキとお別れしないといけないかもしれません。

そんな時、もし、ユウキがあなたを訪ねていったり頼りにすることがあったら、その時はできる範囲で構わないので支えになってやってもらえたら嬉しいです。

どうかユウキのことで後悔されたり人生をつらいと思われていませんように。

あなたのおかげで私たちは可愛いユウキを授かることができたのですから。

ユウキをこの世に送り出してください、手放す勇気を持ってくださって、

本当にありがとうございます。

ユウキには「その名前のように勇気を持って生きていってね」と伝えています。

あなたがそうしたように。どうか幸せでいてください。

5月～母の日 6月～父の日

と続きますが、今生きている全ての人には父と母の存在が不可欠ですが、その父～母～祖先にどう向き合い感謝と畏敬の念を持って日々を過ごすかは、人生においてとっても大切な事のように、年齢を重ねるたびに強く思うようになってきて、今、我が家には、新しく父～母～祖先にしっかり手を合わせる場所として、仏間を造っていて、完成後は仏前に参るという事をしっかり日々の習慣にしようと思います。

●玉名店に「専用相談室」完成しました お気軽にお寄り下さい

●配達&宅急便もお気軽に申し付け下さい！

●配達&宅急便もキャンペーン対応します！！

くすりのキュート 倉光 浩城

TEL (090-8357-2904)

